

今月の一枚



当日集まったメンバーで練習後の集合写真（7月20日、泉田市民館にて）

◆◆ 順慶寺太鼓の会 ◆◆

4月より発足した順慶寺太鼓の会。プロの和太鼓奏者・塩崎智由先生を講師として招き、月に2回ほどのペースで練習をしている。太鼓の響きを通して参加者同士の交流も深まり、現在は基礎を中心に楽しく学んでいる。今後は舞台での演奏も目標に、稽古を重ねている。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年（令和8年）

8月号

VOL. 394

◆ 盆精進とは ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』からの一節です。

「慈しみの心を持ち

ブツダの教えを喜ぶ出家修行者は

感覚のはたらきが静まった

安らぎと静けさの境地に至る」

（第三六八偈）

八月はお盆の季節です。迎え火に始まり、さまざまな盆供養や卒塔婆の奉納を経て、送り火や精霊流しで締めくくられます。日本各地で地域の特色を交えながら営まれる大切な風物詩であり、この時期に故郷へ戻り、盆参りをする方も多いのではないのでしょうか。

お盆の期間には「盆精進」として、動物性の食品を避け、野菜や穀物を中心とした食事をいただく習慣もあります。これは、仏教の戒律である「不殺生戒」に基づき、いのちあるものを奪って食べることを慎む姿勢を表しています。

『ダンマパダ』には、次の言葉があります。

「すべての者は暴力におびえる。すべての者は



今月の釈尊の言葉

慈しみの心を持ち

教えを喜ぶ人は

安かさと静けさに至る

『ダンマパダ』
第368偈より



若院のテーマカット NO.85



死を恐れる。自己の身にくらべて、殺してはならない、殺させてはならない」（第二九偈）

このように釈尊は、命を奪うことの罪深さを示し、心穏やかに生きることをすすめています。

先祖が帰ってくるといわれるお盆の期間に、釈尊の教えを通して慈しみの心を思い起こし、精進することは、心の静けさや安らぎへと向かううえで、私たちにとって大きな意義のある行いだと思えます。

◆ 真宗でお盆を行わないのは ◆

一年前に亡くなられた元同朋大学学長・池田

勇諦氏の生前の言葉を集めた「日めくりカレンダー」は、示唆に富む名言集です。

その中に、次の言葉があります。

「一億一心は戦争 一億億心は仏法」という言葉です。

「一億一心」とは、言うまでもなく、第二次世界大戦中に日本国民のスローガンとされた言葉です。国民が一致団結して大義を成し遂げようとする意味を持ち、一九四〇年、近衛文麿氏が首相に就任した際のラジオ演説で用いられたといわれています。その後、大政翼賛運動が規約として定められ、日本では個人の意思よりも大政を優先することが求められ、やがて悲惨な戦争へと進んでいきました。

人が違えば思いも異なり、人の心は億億に移ろっていきます。それを一つにまとめようとすれば、強い統制に頼るほがなく、人間の命の価値よりも別

るものが優先されることは、容易に想像できます。

一方、個々の個性を大切にすることでは、意見を一致させることが難しくなっています。そのため、今でも「空気を読め」という言葉に表れるように、場の空気に支配される風潮が残っています。

では、池田先生のいう「一億億心」とは、どのような意味なのでしょう。それは、仏からいただいた智慧の光の中で、自分の内にある億億の心が、執着や怒りを生み出していることに気づくことではないでしょうか。

真宗では、仏壇に向き合うたびに、自分の内にある「一億億心」と出会い、それを省みていきます。そのため、盆精進という特別な期間を設ける必要はない、ということなのでしょう。

①【池田勇諦】

一九三四年生まれ。56年、東海同朋大（現同朋大）仏教学部卒。62年、大谷大学大学院博士課程満期退学。77年に同朋大教授となり、88年に同大校長に就任した。二〇〇〇年に大谷派の最高位の学階「講師」となり、教学を管轄する重理院の現職の院長だった。宗務顧問。同朋大名譽教授。主な著作は『信心の再興』、『親鸞聖人と現代を生きる』等。

（中外日報より）

②【一億一心】

太平洋戦争の時期の日本の標語であった。言葉の意味としては、日本国民全員が心を一つにして団結することである。一九四〇年七月三日の近衛文麿が首相に就任したことを押するラジオ放送では、大御心を仰いで「一億一心」となり、真実の奉公を行わなければならないと述べられた。

（ウィキペディアより）



お盆には、ご先祖さまを大切に思ってお参りをするのは、どうしてですか。

じゅんこちゃんは、お盆にきちんとお家へ帰るのですね。とてもすばらしいことです。

最近、お盆休みが一年の中でいちばん長い休みになる人も多くいます。そのため、旅行に行ったり、ふだんできないことをしたりして過ごす人もいます。お墓参りも、お盆が始まる前にすませる人が多いので、お盆の前からお墓にはたくさんの人が来ています。お盆は、日本で昔から大切にされてきた行事です。亡くなったご先祖さまが、あの世から家に帰ってくる日だと考えられてきました。でも、この「ご先祖さまが帰ってくる」という考え方は、もともとは農業の習慣から生まれたとも言われています。

昔の農村では、冬に田植えの準備をし、夏には収穫の準備をしていました。田植えや収穫は、くらしにとってとても大切なことでした。その大事な時期を迎える前に、人々はご先祖さまに「いつも見守ってくれてありがとう」と感謝していました。この習慣が、今のお正月やお盆のおつとめにつながったと考えられています。つまり、仏教が広まる前から夏にご先祖さまへ感謝する習慣があったようです。

そのあと、仏教が日本に伝わりました。仏教には「盂蘭盆（うらばん）」という行事があります。この仏教の行事と、もともと日本にあったご先祖さまに感謝する習慣が合わさって、今のようなお盆の先祖供養になったと言われています。

お寺とともに

「厳しい暑さの夏」



梅雨明けとともに、酷暑の夏が始まりました。今年から気象庁が四〇度以上の日を「酷暑」と呼ぶようになったことはニュースで知っていました。が、連日厳しい暑さが続く、各地から悲鳴が聞こえてくるようです。

昨年は暑さの影響で、石垣に囲まれた松の根が高温にさらされ、松が弱ってしまいました。そこへ、以前から寄生していたと思われる松食い虫（線虫）が大量発生し、お寺で最も大切にしていた「門かぶせの松」を枯らしてしまうという苦い経験をしました。そのため今年は、例年以上に注意しながら水遣りに励んでいます。

愛知の酷暑の中で気持ちぐくじけそうになる時は、枯れた松を思い出し、何とか踏みとどまっています。

人間が招いた気候変動によって、世界中の人々が困難に直面しています。

近ごろは夕立も降らない夏空を見上げながら、それでも自分にできることを精一杯やるしかないのだと思います。

若院の成長日記

Growth Diary

《第七六回 セミの声》

近頃は猛暑が続いていますが、セミの鳴き声も聞こえ始めました。子どもの頃は、セミの声を聞くと夏休みの始まりに胸を躍らせたものです。暑さそのものよりも、私にとってはセミの鳴き声のほうが夏の訪れを実感させてくれます。

セミは土の中で何年も過ごし、地上ではわずか数週間の命を懸命に生きます。私も今年で三十歳となり、夏休みを謳歌していた子供時代から大きく時間が立ちました。そう思うと、一日一日を大切に過ごしたいものだと、セミの声を聞きながら感じています。

特集

順慶寺太鼓の会 —人と人をつなぐ架け橋に—

四月より本格始動した「順慶寺太鼓の会(仮称)」。この会は、「太鼓を通して人と人とながらる場所をつくりたい」という住職の願いから始まりました。その思いに賛同くださった杉浦太鼓店の杉浦新八さんのご協力をいただき、和太鼓奏者・塩崎智由先生を講師にお迎えして活動を続けています。

太鼓というと、お祭りや舞台で力強く演奏される姿を思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、順慶寺太鼓の会が目指しているものは、技術を競うことだけではなく、年齢や経験の間わず、一つの音を囲みながら、人と人とのつながりを育むことを何よりも大切にしています。

発足以来、月に二回ほどの練習を重ねていますが、参加者の顔ぶれは実にさまざまです。初めて太鼓の撥を握る方、昔少し経験のある方、小学生からご年配の方まで、一緒になって汗を流しています。最初は遠慮がちだった方も、練習を重ねるにつれ自然と笑顔が増え、休憩時間には太鼓以外の話でも盛り上がるようになりました。

講師を務めてくださる塩崎先生は、演奏技術だけでなく、「礼儀」や「太鼓を楽しむこと」やの大切さを常に教えてくださいます。最初は上手に叩けなくても

構わない。まずは音を楽しみ、人との時間を楽しむこと。その言葉どおり、練習中は失敗を恐れず、何度も挑戦する明るい雰囲気包まれています。

現在は基礎練習を中心に活動していますが、ゆくゆくは地域の発表会への出演や、順慶寺の法要・行事での演奏も目標としています。日々の練習を積み重ね、一打一打に心を込めた演奏を通して、皆さまにも太鼓の響きを届けられる日を目指しています。



アクセントの指導



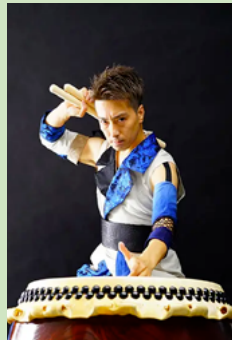
練習風景 - 基礎の構えから

指しています。

順慶寺太鼓の会は、まだ歩み始めたばかりです。しかし、この小さな一歩が、人と人をつなぎ、未来へとつながる大きな響きとなることを願っています。どうぞこれからの活動にも、温かいご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます。

また、順慶寺太鼓の会では、一緒に活動してくださる仲間を募集しています。経験の有無や年齢は問いません。初めて太鼓に触れる方でも、講師が基礎から丁寧に指導いたします。「太鼓を叩いてみたい」「新しい趣味を始めたい」「仲間と一緒に音を楽しみたい」という方は、ぜひお気軽にご参加ください。

◆講師紹介◆



塩崎智由先生

愛知県刈谷市出身。

父の影響で幼少より和太鼓に触れ、高校卒業と同時にプロの道へ。国内外での公演経験を積んだ後、地元愛知で二〇〇〇年より和太鼓衆悟空の奏者代表として活動。

二〇二〇年に独立し和太鼓衆SHINを立ち上げる。何事にも捉われないスタイルで、和洋楽器のほか演劇やダンス、朗読など多ジャンルとの融合に挑戦し、新しい和の楽曲舞台作品を創作し続けている。

(和太鼓衆SHIN・HPより抜粋)

7月度護国寺会物故者(敬称略)

釋尼好華

7月17日寂 濱島好子(89)

大府市 濱島淳子様の母

以上二名の方が

浄土にお還りになりました

台掌

お知らせ
令和八年度同朋ゼミ研修旅行
宗祖御流罪の地巡拝募集

本年、同朋ゼミでは、10月7日〜8日の一泊二日の予定で、宗祖が御流罪され、苦痛の日々を過ごされた越後(上越)に研修旅行を

する予定にしています。

小型バス一台で、募集人員は20名まで。一般参加も歓迎です。参加費は一人三万円。申込メ切は8月30日。同朋ゼミ以外の方で参加希望の方は、順慶寺まで直接申込にしてください。

編集部短信

◆駐車場に倉庫設置完了!! 先月コンクリート舗装が完了した駐車場に、浜松市の(株)アズマさんにより、倉庫の設置されました。主に総代の物置として活用され、大法要の際に使われるテント等が入れる予定です。

◆上半期定例責役総代会を開催!! さる7月11日、定例責役総代会を順慶寺玄関にて開催されました。主に、令和7年度の宗教法人の会計報告、令和8年護国寺の会計並びに行事報告がなされました。

◆境内にミスト設置!! 40度近い酷暑の中、少しでも涼しくお参りいただけるよう、今年も境内プランコ前にミストを設置しました。朝6時から夕方18時まで噴霧し、8月いっぱいまで稼働する予

編集雑記

定です。ひとときの涼を感じながら、どうぞゆつくりお参りください。

7月、久しぶりに関東の御旧跡をお参りました。三十年ぶりの寺もあり、変化に驚かされました。良くなった寺もあれば、掃除が行き届かず参拝を歓迎されていないように感じる寺もあり、お寺のあり方を深く考えさせられました。(住)

最近、運動をする機会が増えてきました。順慶寺太鼓の会の練習に加え、岡崎教区の寺院野球チームの練習にも参加したため、毎日のように筋肉痛と付き合っています。日頃の運動不足を痛感しています。練習の後は思うように体が動かず、「もう若くないな」と苦笑いすることもしばしばです。(茗)



8月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	土	順慶寺子ども会(9:00～、順慶寺本堂) 盆会・寺宝風入会(13:00～、順慶寺本堂)	
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		木-1
7	金		
8	土		
9	日	真宗講座(14:00～、順慶寺本堂)	
10	月		
11	火		
12	水		
13	木	盆期間特別照明・本堂空調	(盆休)
14	金		
15	土		

16	日		
17	月		
18	火		
19	水		
20	木	上半期教化委員会(14:00～、順慶寺本堂)	木-3
21	金		
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		木-4
28	金	宗祖聖人御命日(7:00～、順慶寺本堂)	
29	土		
30	日		
31	月		

8月行事内容 詳細

盆会・寺宝風入会

午後1時～ 順慶寺本堂他

法話 三浦眞教氏

本年もお盆を前に、本堂にて盆会・寺宝風入会を開催します。

なお、ご案内は、本年も本堂に須弥壇納骨されたお宅のみとさせていただきます。

また、大変な暑さが予想されます。

熱中症には十分お気をつけてご参詣ください。

寺宝展示実施

8月1日(土)～8月16日(日)

8月1日の盆会の当日、順慶寺玄関では、宝物のお虫干しを実施します。その後、盆期間の終了時まで、午前8時から午後5時まで宝物を玄関に展示させていただきます。

上半期・教化委員会

8月20日(木)

午後2時～ 順慶寺玄関

半期に一度の教化委員会を開催します。順慶寺をとりまく月例会などの会長、総代四役でつくる委員会。年に二度、委員会を開催し、教化指針や経過の確認をして、改善をしていきます。

お知らせ

●8月の寺カフエは中止

当初、8月の寺カフエは開催を予定しておりましたが、連日の厳しい暑さと熱中症予防の観点から、中止とさせていただきます。なお、同日に開催予定の順慶寺子ども会につきましては、熱中症対策を講じたうえで、予定どおり開催いたします。

●盆期間特別照明・本堂空調について

今年も8月12日から16日までの間、順慶寺本堂・墓地等には、

夜間特別照明を実施いたします。照明実施時間は、午後6時から午後9時まで。
また、近年の気温上昇により、参詣にいられた方の熱中症が懸念されます。そのため、盆期間の本堂開扉時間(午前6時から午後9時)には、本堂内には終始空調を効かせておきます。ゆっくりお参りし休憩してください。その際、本堂に冷たいお飲み物を準備しておきますので、自由にお飲みください。

じゅんこのときめき歳時記

かき氷

40度に迫るぐらいの大変な暑さが続いていますね。こんな暑い日には、キンキンに冷えたかき氷が恋しくなりますね。

かき氷が日本に登場する最も古い記録は、平安時代の清少納言『枕草子』です。当時は氷を保存する技術がなく、氷は貴族しか口にできない大変貴重な食べ物でした。

明治時代になると製氷技術が発達し、庶民も氷を楽しめるようになります。さらに明治二十年、かき氷機が発明されたことで、現在のようなかき氷が広く親しまれるようになります。

ました。

今では縁日やお祭りの定番となったかき氷ですが、その歴史を知ると、気軽に味わえる一杯も「有難い」ものだと感じられますね。

弁解の 口をまつ亦に

かき氷

竹貫示虹

